

夏の眞盛に

冬服襟巻の奇人

香港太宰秘書官来る

日本の古典學に通達する英人學者

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

△先生の事である

演藝案内

潮の如く

忍術十勇士

有楽館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

鼻山人著

風流男

忍術十勇士

有楽館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館

浪花館

大正館



仁丹

悪疫流行

殺菌力健胃力兼備の仁丹

常用極力胃腸の強健を圖るゝが最も肝心

- ▲四季容器付 (二貼半入) 二十銭
- ▲本形容器付 (七貼入) 五十銭
- ▲徳用包 (九貼入) 五十銭
- ▲桐箱入 (十七貼入) 一圓

飲食を節せよ然らば
汝は健康なるべし
フランクリン

秋が来た。秋が来た！

易い秋が来た！此際

[illegible]

腦病患者よ

此好機を逸する勿れ

ハガキで申込次第
健腦強精の秘法を教ふ

良藥の選擇は最も安全な治癒法を何時までも行つてゐなければならない。唯である。藥と患者は始めからだ何となく身合がだるく、頭腦が、

健康のものを選ばなければならぬ。頭腦が、

折角頭中でも下等な藥を選ん 状態に陥る。斯る早には早速レド

では却つて赤き顔の顔も多少少、

しもしお顔がない。下等な藥は水や

水を飲むと同じ事である。害にこそな

れ決して役に立たない毒である。から来る恐ろしい現象は、

患者の中には一ヶ月に二度も三度 滅退である。記憶力が減退すれば

藥を取換へる人があるが、夫では 何を行つて、物事に一向興が

折角頭中でも何の役にも立たな 覺けがない云云つた有様で、愚

夫故藥の選擇に就ては細心の注意 覺けがない云云つた有様で、愚

をすべく、一度採用したならば飽 したには到底大事事は出来ない

に其藥を信用して全治する迄は精 斯る人の約束は常々にはならな

を一つ一つ試して服用しなければならぬ。從つて世人からは當に

が、試してゐる藥を信用するの され、一日も此世に安眠さして

博士はロビワン博士の極力仕向
りて直さず肺病輕減の結果であ
るを認識されたる現在の體格は
第一の地位に當りて士族の
中先づ第一に推擧せなければならぬ
快にせよ

●血脈相傳やみの人一代は
狂野の態度を取り、無稽の根
柢をたし、コビーやお茶

●ヒステリーの人一巾には死ん

前症は速に扶救して終る。多くは此脈の異常から起るものであ
 逆上。常時の人へ天氣の加減る。故に脈病は薬レペンを服用
 で煩がボツ／＼のはせて赤くなして頭脈を鎮め、身脈を安鎮して
 り、唇が乾き、時々眩暈がしてヒステリーを来治すことが肝要
 前後に覺に陥るは脈病に罹つてである。
 らる。あるから、直ちに體脈圖検査。早期に遺精の人へ一先残

レーベンの服用に限る。薬
レーベンを服用して、面腐を閉
明にし、精脈を爽快にすれば、漸
日寧に能なり。而も患を減じ、時
致を授け、皆らない事に終鳴故
らしたり。器物を破壊したり、他
に若くは先づ二百錠三百錠を試み

力が破滅して、何をもちつても一向
 ミ、知らずの裡に段々記置
 〓傳説い、隨傳が勢つてくる
 になつて終ふ
 かに「木下尚江」の「大正」の
 ならで苦する様な事はなく
 一四、一四六〇錢、三、四、五、五〇五
 錢、世に到る處の信用ある、素店に賣
 つて居る。ハガキで東京銀座町
 二十二中宿定太郎又は大塚安一
 郵便中、大塚事務所宛、手及び
 郵便中、大塚事務所宛、手及び

運動場

全州の庭球戦

龍馬隊對光州軍

一勝一敗す

三十一日、一日の兩日、全州普通學校に於て、龍馬隊對光州軍庭球戰の競爭ありたり。三十日は龍馬隊の勝利なり。

山形勇進三組不戦ニシテ大勝
 二日は龍馬隊三組不戦ニシテ光州軍勇進二組の底流なし。光州軍勇進組谷間川組雖も、龍馬龍山軍の不戦三組を倒し、勇進三組を併破して光州軍の勝利に歸せり(此也)。

各地の白米

昨日、宛他電報中
 一等白米 升四十二錢變
 劣な正米三十四圓積弱の氣なつて終ふ。

◎**龍馬** 健闘なし
 昨、昨日、二面の軍事報告に關する記事の見出しに無類類云々あるは新聞載の誤につき訂正す。

で頗るボツ／＼のものはせて赤くならし、肩が乾き、時々喉がして前後や聲に際するは筋力に疲れてゐる證據であるから、直ち體能訓練レベンを服用して體能をよすれば、自然に喉が通じて終へられ、更に喉が通じ、體能が治癒の處も安くなり早治法はレベンの服用に限る。

◎**龍馬** 健闘なし 苦勞なき人、疾病に一室に閉居し、諸息を洩し、秋聲を聴し、計まらぬ事に耽溺されてたり、醫物を破滅したり、他に人の事まで引受けて苦勞してゐる人があるが、之れも大抵耳聾眼盲に故障がある證據であるから、體能訓練レベンを服用して氣分が爽快になれば、快活な人になり、詰らない事で苦勞する様な事はなつて終ふ。

◎**龍馬** 健闘なし 腦力が衰つてくる人、知らず請うる裡に段々體能力が減退して、何をやらへ一向要領を得なくなる。さあ何うなては人間も駄目ぞ、到底大事業は出来まい。勿事に體弱く、一つづつ(志氣)

本館は他の下御本位の費でないから、服用の體能を速に超へることが、論より體能に直ちに服せられ、薬價千錢、五十錢、八十五錢、一圓、二圓六錢、三四圓五十五錢世界到處の信用ある藥店に賣つて居る。ハガキまで東京龍馬町二十二丁龍馬太郎又は大阪安土町堀中東區龍馬所須申込次第當座郵送奉寄願望者御用便法及び購取方等詳細說明書御用便法及び購取方等詳細說明書の二冊を直ち

